

廃校活用マッチングイベント（オンライン） 開催報告

日 時：令和3年2月5日(金) 9:30～16:30 ※オンライン開催

参加者：約95名（事業者約50名、自治体約30名、ブース出展者約15名）

◆行政説明、事例発表、マッチングタイムに参加する自治体からの概要説明（午前）



行政説明「廃校施設の有効活用について」
(野沢 施設助成課長)

文科省の調査結果に基づき、全国の廃校活用状況や課題を説明し、「みんなの廃校プロジェクト」の取組や国庫補助制度の紹介等を行った。



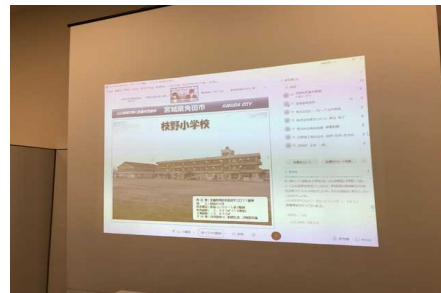
事例発表① 高速道路工事請負業者の事務所および寄宿舎として活用（神奈川県山北町×東急建設（株））

広い校庭と大きな校舎が工事現場の事務所・宿舍として最適であったこと、地域住民への丁寧な説明により理解や協力が得られたことから廃校活用が進んだ。維持管理費の削減、施設使用料による町の歳入増加、地域活性化にもつながっていることが報告された。



事例発表② 農業体験複合施設として活用
(山梨県北杜市×(株)ファーマン)

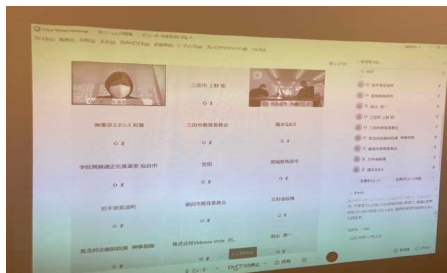
廃校を活用して、農業体験の場づくりとともに、農作物の加工や袋詰めなど福祉施設とも連携した農福連携を推進している。また、地域のシンボル施設として存続させるため、地域住民に活用してもらえる環境維持と整備も行っていることが報告された。



マッチングタイムに参加する自治体からの概要説明

マッチングタイムに参加する8自治体から、自治体の基本情報や、活用用途を募集している廃校施設について概要説明を行った。

◆マッチングタイム（午後）



廃校を使ってほしい8自治体と廃校を使いたい事業者のマッチングを図るため、オンライン上で自治体別のミーティングルームを設け、参加者同士で活発な質疑応答や情報交換が行われた。

<参加自治体> 宮城県気仙沼市、宮城県角田市、千葉県、千葉県君津市、富山県、長野県筑北村、兵庫県南あわじ市、奈良県下市町

